

## 医学教育学講座／総合医学教育センター

1. 【教育】	
1-1. 到達目標	医療者には、1. プロフェッショナリズム、2. 医学知識と問題対応能力、3. 診療技能と患者ケア、4. コミュニケーション能力、5. チーム医療の実践、6. 医療の質と安全の管理、7. 社会における医療の実践、8. 科学的探究、9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢などの資質・能力が要求されるが、現在の医学教育においてそれらを学修するための理論・方略を獲得する機会は必ずしも十分ではない。本講座では、医学教育学、行動科学、社会科学的な見地からこれらの資質・能力を獲得するための方略を実習等を通じて体験し、その背景を理解するとともに、自己学修のみならず、学部教育・卒後教育に応用できるレベルに到達することが目標である。
1-2. 現状説明	現在は、1) 試験問題作成などの学修評価方法、2) 医療シミュレーター等を用いた診療技能獲得のための実習、3) 実際の医療倫理や医療安全上の問題をテーマにした演習、4) 新たな診療科を目指す医師や潜在看護師を対象としたリフレッシュ医学教育（リカレント教育）を基本に教育研修を行なっている。リフレッシュ医学教育（リカレント教育）については、山形大学医学部総合医学教育センターホームページ参照（URL：https://www.id.yamagata-u.ac.jp/yufm_gmec/）。
1-3. 点検・評価	1) 及び2) は大学院教育に於いて、3) は3年生対象の研究室研修及び毎月開催している医療従事者対象の症例検討会に於いて教育を実践しているが、2名の教員で対応できる人数に制限があり、個々の学修者に対応するためには教育方法の工夫が必要と思われた。4) に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は附属病院看護部の支援を得て潜在看護師の研修のみ行なった。
1-4. 目標・改善方策の達成度	少人数で、最大限、学生の個別な質問や対応を丁寧に行なうように努める。学修者の過密なカリキュラムと学生自身の多様な価値観、また今年度はオンライン講義の制約があり、短時間では問題点を考えさせるだけに終わっており、今後はさらに発展的な考察ができるように改善していく予定である。新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されれば、医師を対象としたリフレッシュ医学教育も再開したい。
2. 【研究】	
2-1. 到達目標	当講座では、医療コンフリクトマネジメント、医療対人関係論としての医療メディエーション研究により、インフォームド・コンセントの充実、協働意思決定支援、紛争管理などにおける患者と医療者の良好な関係構築を目指している。また、事案の実践研究により、医療事故対応や医療安全管理に関する地域の関連病院との連携体制の構築を目標としている。
2-2. 現状説明	患者・家族、医師・医療者のコミュニケーションや認知齟齬の研究に関して2020年は、英語原著論文1本、邦文論文12本。現在英語論文1本執筆中。また下記2つの科学研究費助成事業研究を実施した。1. 「医療紛争発生機序と説明義務のナラティブ分析」特設紛争研究 2. 「修復的正義からみたインフォームド・コンセントの対話過程の検証」基盤研究(c)一般
2-3. 点検・評価	今年度は、論文発表及び研究費獲得に関しては実績を上げることができたが、新型コロナウイルス感染症の影響で予定されていた海外の学会も中止され学会発表がなかったことは残念である。
2-4. 目標・改善方策の達成度	次年度は執筆中の英語論文の完成と、今年度発表できなかった学会発表を行うことが目標である。
3. 【診療】	
3-1. 到達目標	1. 患者・家族のみならず、医療従事者のさまざまな視点を受容でき、患者中心の医療が提供できるように、管理部門・診療・看護・事務等のセクションで指導相談業務を担当する。2. 患者サポート充実体制支援の指導・助言を行う。3. 臨床倫理委員会の委員、医療事故防止対策委員会委員として医療安全管理に参画する。以上を到達目標として活動する。
3-2. 現状説明	院内で看護部の学習会を、毎月1回～2回開催した。参加者の中に、裁判所での執務の兼業が認められた者がおり、医療法学的なアプローチの演習も加えた。医療機関内外の医療安全管理者と連携、全国の医療対話推進者（医療メディエーター）とも協力し、患者サポート体制の充実に寄与している。また今年度は、依頼のあった講座の主任教授や関係する他病院の医師を交えての医療事故対応の検討会を患者・家族と関係者と共に開催した。
3-3. 点検・評価	上述のごとく今年度の到達目標は、ほぼ達成できた。
3-4. 目標・改善方策の達成度	今年度の到達目標は達成されたが、臨床現場で生じる問題は事例毎に異なるため、次年度も同じ到達目標とし、目標の達成に向けた努力を引き続き行う。
4. 【社会貢献】	
4-1. 到達目標	前述の通り当講座は、良好な医療従事者・患者関係構築のためのサポートや地域の医療従事者に対するリカレント教育及び医療対話推進教育を通じて社会に貢献することを目指している。また、山形大学が推進する地域のSDGsへの取組を積極的に支援するために、SDGsの3, 4, 10, 16, 17に貢献できるように、取り組んでいくことが目標である。（参考URL ① https://www.id.yamagata-u.ac.jp/sdgs.html, ②https://sdgs.yamagata-u.ac.jp/）
4-2. 現状説明	前者としては、ADR (Alternative Dispute Resolution) 学術研究会（地域の関連病院5施設と連携）を年1回の合同開催ならびに、毎月1回の事例検討会や学習会をWeb開催した。また、医療機関内外の医療安全管理者と連携、全国の医療対話推進者（医療メディエーター）とも協力し、患者サポート体制の充実に寄与した。後者としては、医師及び看護師のリフレッシュ医学教育を行なっている。
4-3. 点検・評価	ADR学術研究会は毎月1～2回開催、リフレッシュ医学教育に関しては、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で潜在看護師対象の研修のみ行なったのは前述の通り。
4-4. 目標・改善方策の達成度	今後もADR学術研究会の活動を継続するとともに、裁判所や医師会との連携を図り、医療事故や患者安全の対応における、労働衛生についても検討する。また新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されれば、潜在看護師の研修のみならず医師対象の研修も再開したい。目標関連のHP等を立ち上げ、社会貢献に努める予定である。

業績分類	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者等	論題・章題・演題・学会賞名等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月等	Impact Factor ・四分位 (Quartile)	刊行状況	研究情報備考
1-1. 論文/原著 (査読有)	Hiroshi Itagaki, Yasuaki Kokubo, Kanako Kawanami, Shinji Sato, Yuki Yamada, <u>Shinya Sato</u> , Yukihiko Sonoda	* Arterial spin labeling magnetic resonance imaging at short post-labeling delay reflects cerebral perfusion pressure verified by oxygen-15-positron emission tomography in cerebrovascular stenocclusive disease	Acta Radiol. 2021 Feb; 62(2): 225-233. PMID: 32295388	IF=1.635, Q3		
1-1. 論文/原著 (査読有)	Atsushi Natsume, Kosuke Aoki, Fumiharu Ohka, Sachi Maeda, Masaki Hirano, Alimu Adilijiang, Kazuya Motomura, Minako Sumi, Ryo Nishikawa, Yoshitaka Narita, Yoshihiro Muragaki, Takashi Maruyama, Tamio Ito, Takaaki Beppu, Hideo Nakamura, Takamasa Kayama, <u>Shinya Sato</u> , Motoo Nagane, Kazuhiko Mishima, Yoko Nakasu, Kaoru Kurisu, Fumiyuki Yamasaki, Kazuhiko Sugiyama, Takanori Onishi, Yasuo Iwadate, Mizuhiko Terasaki, Hiroyuki Kobayashi, Akira Matsumura, Eiichi Ishikawa, Hikaru Sasaki, Akitake Mukasa, Takayuki Matsuo, Hirofumi Hirano, Toshihiro Kumabe, Nobusada Shinoura, Naoya Hashimoto, Tomokazu Aoki, Akio Asai, Tatsuya Abe, Atsuo Yoshino, Yoshiki Arakawa, Kenichiro Asano, Koji Yoshimoto, Soichiro Shibui, Yusuke Okuno, Toshihiko Wakabayashi, and Members of Japan Clinical Oncology Group Brain Tumor Study Group (JCOG-BTSG)	Genetic analysis in patients with newly diagnosed glioblastomas treated with interferon-beta plus temozolomide in comparison with temozolomide alone.	Journal of Neuro-Oncology. 2020 May; 148(1): 17-27. PMID: 32367437	IF=3.267, Q2		
1-1. 論文/原著 (査読有)	<u>Nakanishi T</u> , Ito H	Situation of empathy among preclinical medical student in Faculty of Medicine, Yamagata University-A longitudinal study.	Bulletin of the Yamagata University. Yamagata Med j. 2021 Feb; 39(1): 16-24		E Only	
1-1. 論文/原著 (査読有)	松田友美, 櫻田香, <u>佐藤慎哉</u> , 石田陽子, 宇野智咲, 三枝真, 大竹まり子, 齋藤貴史, 井上栄子, 嘉山孝正	* A県の訪問看護ステーション利用者における傷病別に必要な看護ケアの分析	日本在宅医療連合学会誌. 2021年2月; 2(1): 23-34			
1-1. 論文/原著 (査読有)	伊藤美以子, 松田憲一朗, <u>佐藤慎哉</u> , 園田順彦	* 段階的に開窓術を行った髄膜炎後多房性水頭症の1例	Neurological Surgery. 2020年12月; 48(12): 1121-1128			
1-1. 論文/原著 (査読無)	<u>中西淑美</u>	“共創未来” 協働意思決定にむけて	日本農村医学会雑誌. 2021年3月; 69(6): 580-584			
1-7. 論文/その他	松田友美, 櫻田香, 石田陽子, 三枝真, 宇野智咲, 大竹まり子, 齋藤貴史, 井上栄子, <u>佐藤慎哉</u> , 嘉山孝正	* A県内の訪問看護ステーション利用者の医学的状況および看護内容の実態調査	日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集. 2020年6月; 2: 211			
1-7. 論文/その他	<u>中西淑美</u>	医療対話推進モデル (医療メディエーション) はInformed Consentに有用か	医学教育. 2020年7月; 51 Suppl: 109			
1-7. 論文/その他	<u>中西淑美</u>	“共創未来” 協働意思決定にむけて	日本農村医学会雑誌. 2020年9月; 69(3): 218			

業績分類	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・四分位 (Quartile)	刊行状況	研究情報備考
1-7. 論文/その他	平井理心, 井上貴昭, 小山泰明, 川口寿彦, 網川小百合, 横田優希, 直川匡晴, 中西淑美, 平松祐司, 山縣邦弘	重症対応メディエーション講座の試み 4つの共有(時間・疾患・関係・意思決定)を学ぶ	移植. 2020年10月; 55 総会臨時: 327			B
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 40 感染と倫理	文化連情報. 2020年4月; 505: 58-62			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 41 感染予防に潜む倫理 —COVID-19感染流行(1)—	文化連情報. 2020年5月; 506: 50-53			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 42 感染予防に潜む倫理 —COVID-19感染流行(2)—	文化連情報. 2020年6月; 507: 52-58			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 43 感染予防に潜む倫理 —COVID-19感染流行(3)—	文化連情報. 2020年7月; 508: 52-68			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 44 再びの安楽死と尊厳死—生と死をめぐる意思決定	文化連情報. 2020年9月; 510: 65-71			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 45 テレワーク等から考える職業倫理	文化連情報. 2020年10月; 511: 68-73			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 46 AIと倫理	文化連情報. 2020年12月; 513: 60-64			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 47 2021年—人間の行動と生命倫理	文化連情報. 2020年1月; 514: 70-75			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 48 終末期の意思決定と倫理対話	文化連情報. 2020年2月; 515: 64-68			
1-7. 論文/その他	中西淑美	連載 臨床倫理メディエーション 49 自然と人との共生にみる利他性	文化連情報. 2020年3月; 516: 72-77			
2-2-i. 学会報告/国内学会/特別講演・招待講演・会長講演	中西淑美	教育講演“共創未来” 協働意思決定にむけて	日本農村医学会学術総会, 名古屋; 2020年10月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題(査読無)	小久保安昭, 近藤礼, 佐藤慎哉, 嘉山孝正, 園田順彦	* 抗血栓療法中の脳出血～山形県脳卒中登録データからの分析～	第45回日本脳卒中学会学術集会, Web開催; 2020年8月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題(査読有)	伊藤美以子, 久下淳史, 佐藤慎哉, 嘉山孝正, 園田順彦	* 非機能性下垂体腺腫の血流動態と嚢胞形成について	日本脳神経外科学会 第79回学術総会, 岡山; 2020年10月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題(査読有)	伊藤美以子, 久下淳史, 佐藤慎哉, 嘉山孝正, 園田順彦	* 非機能性下垂体腺腫の血流動態と嚢胞形成について	第31回間脳下垂体腫瘍学会, Web開催; 2021年2月			
2-3-i. 学会報告/国内地方会/特別講演・招待講演・会長講演	中西淑美	臨床倫理—自律尊重と意思決定	第3回日本整形外科勤務医会東北地区研修会, 山形(Web); 2020年6月			
2-4-i. 学会報告/研究会/特別講演・招待講演・会長講演	中西淑美	医療メディエーションと医療安全	新潟県病院協会 医療安全研究会, 新潟; 2020年10月			
2-5. 学会報告/その他	中西淑美	認定看護管理者育成課程セカンドレベルにおける「人材管理Ⅱ: 多職種チームのマネジメント」について	認定看護管理者育成課程セカンドレベル研修会, 山形; 2020年11月			
3. 学会, 講演会, シンポジウム, ワークショップ等の開催	中西淑美	医療対話推進者—医療メディエーション基礎編	医療メディエーション基礎編研修会, 京都; 2020年8月			
3. 学会, 講演会, シンポジウム, ワークショップ等の開催	中西淑美	医療メディエーター導入・育成について	医療メディエーター導入講演会, 福岡; 2020年10月			

業績分類	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・四分位 (Quartile)	刊行状況	研究情報備考
3. 学会、講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催	中西淑美	愛媛県医師会一研修医のための医療メディエーション研修	第8回研修医ワークショップ, 愛媛; 2020年11月			
3. 学会、講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催	中西淑美	医療安全と医療メディエーション	医療メディエーション研修会, 新潟 (Web); 2020年12月			
3. 学会、講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催	中西淑美	医療安全と医療メディエーション	医療メディエーション研修会, 山形; 2021年2月			
3. 学会、講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催	中西淑美	安全対話文化と医療メディエーション	医療メディエーション研修会, 宮城 (Web); 2021年3月			
3. 学会、講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催	中西淑美	山形県医療ADR学術研究会勉強会	山形; 2020年4月-2021年3月 (毎月1回)			
3. 学会、講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催	中西淑美	第15回山形県医療ADR学術研究会	山形; 2020年12月 (年1回)			
6. その他	中西淑美	山形大学医学部付属病院看護師長看護師教育	山形; 2020年4月-2021年3月			